

第37回秋田県病院大会(案)

テーマ 「新たな地域医療構想への対応 ～2040年に向けて今必要なこと～」

と き 令和8年10月17日(土) 午後1時

と ころ 秋田キャッスルホテル(4階) 放光の間
〒010-0001 秋田市中通一丁目3-5 ☎ 018(834)1141

主 催 一般社団法人 秋 田 県 病 院 協 会

後 援 秋田県、(一社)秋田県医師会、(一社)秋田県歯科医師会、
(依頼先) (一社)秋田県薬剤師会、(公社)秋田県看護協会、(一社)日本病院会秋田県支部、
(公社)全日本病院協会秋田県支部、(公社)日本精神科病院協会秋田県支部、
(一社)日本医療法人協会秋田県支部、(公社)全国自治体病院協議会秋田県支部、
秋田魁新報社、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、
AAB秋田朝日放送

趣 旨

新たな地域医療構想が策定され、2040年に向けた連携・再編・統合が幕を開けた。2027年度から本格化し、医療機関は2つの機能報告をすることになる。従来の病床機能報告(高度急性期、急性期、包括期、慢性期)、そして今回創設された医療機関機能報告(急性期拠点、高齢者救急、在宅医療等、専門等)であるが、これまで以上に地域に応じたきめ細かい対応が求められることになった。

さて、秋田県は少子高齢化と人口減少が全国に先行しており、外来・入院患者数ともに減少傾向にある。一方、85歳以上の高齢者救急は増加し、在宅医療の需要が増えることが予想される。退院後に行き場のない高齢者に対しては、従来の病病連携や病診連携では対応できず、今後は在宅(訪問看護)や介護との連携が不可欠になるであろう。人材が不足しているとはいえ、どうすれば地域医療を維持できるか。各職種の現況と課題を知り、多職種連携に向けて考える機会にしたい。

プログラム

日 程

12 : 30 受 付

13 : 00 開 会

総 合 司 会 (一社)秋田県病院協会 副会長 河 合 秀 樹
主催者挨拶 (一社)秋田県病院協会 会 長 小 野 剛
来賓祝辞 秋 田 県 知 事 鈴 木 健 太 様
来賓紹介

13 : 10 優良職員表彰

13 : 25 パネルディスカッション

テーマ 「新たな地域医療構想への対応
～2040年に向けて今必要なこと～」

コーディネーター

(一社)秋田県病院協会 理 事 鎌 田 敦 志 (町立羽後病院長)
(一社)秋田県病院協会 理 事 佐 藤 麻美子 (佐藤病院長)

[基調講演]

演 題 「持続可能な医療提供体制を構築するために
～課題と方向性～」

講 師 (一社)秋田県病院協会 会 長 小 野 剛
(横手市病院事業管理者)

パネリスト (順不同)

1. 市立横手病院 院 長 藤 盛 修 成
2. 北秋田市民病院 院 長 相 澤 俊 朗
3. 市立秋田総合病院 精神科医長 小 松 宗 央
4. 第一病院居宅介護支援事業所
ケアマネジャー 佐々木 佳緒理
5. 藤原記念病院 副院長 近 藤 克 幸

16 : 25 閉 会

懇 親 会 (アゼーリア)